

【授業科目】細胞培養技術学 Cell culture technology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森本 誠	3年次後期	選択	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／次世代の医療といわれる再生医療の分野は発展途上であり、技術開発は日進月歩である。本講義では特に細胞を扱う実験の基礎、応用について教授する。臨床検査技師は企業研究施設において実験のスペシャリストとして活躍することも多い。先端医療技術、バイオ技術を理解し、基礎医学や再生医療、生殖医療に役立つ幅広い知識を得てもらう。また、近年先進国で問題となっている不妊だが、不妊治療においても臨床検査技師の技術は生かすことができる。胚培養士として活躍する臨床検査技師も多く、その実際について講義を進める。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/定期試験について総評コメントを掲示にて公開する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 細胞培養の目的と基礎を理解できる。 ② 細胞培養の方法や応用及び、今後の展望について理解し説明できる。 ③ 生殖医療の現状、問題点、発展性を理解し説明できる。 ④ 胚培養士の仕事について理解し説明できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>今後の再生医療の基本となる知識・技術であるためしっかり理解してほしい。</p> <p>第1～8回事前学習：事前に配布するプリントを読み、わからない所は予習すること（2時間）。 第1～8回事後学習：授業内容を復習する。要点をまとめておく（2時間）。授業内容に準じた国家試験問題を解き復習することでより理解が深まる。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 細胞培養とは 第2回 細胞培養の目的 第3回 細胞培養の基礎 第4回 細胞培養の応用とこれから 第5回 細胞培養技術を生かすフィールド 第6回 生殖補助医療について 第7回 胚培養士の役割 第8回 胚培養士の実際</p>							全て 森本
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 レポート80% 授業態度20%</p>							
教科書	プリントを配布する。			参考書等		日本卵子学会編集 『生殖補助医療（ART）胚培養の理論と実際』近代出版		
関係する他の科目	先端医療技術学							
学生へのメッセージ	<p>再生医療の現場では細胞培養技術は必須である。特に胚培養の細胞培養は多くの臨床検査技師が現場で活躍している。本科目では生殖補助医療において臨床検査技師としての関わりを重点的に学び、将来的には胚培養士認定試験にも挑戦し、臨床検査技師として新たな方向性を見つけてほしい。また、正しい性知識を学び、自身の将来設計に役立ててほしい。</p>							